

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1494100090
法人名	株式会社イー・ケア
事業所名	グループホーム イー・ケア座間
訪問調査日	平成25年4月8日
評価確定日	平成25年4月26日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

(株)R-CORPORATION外部評価事業部

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494100090	事業の開始年月日	平成24年4月1日	
		指定年月日		
法人名	株式会社イー・ケア			
事業所名	グループホーム イー・ケア座間			
所在地	(252-0014) 座間市栗原中央3丁目10-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成25年3月15日	評価結果 市町村受理日	平成25年8月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成25年4月8日	評価機関 評価決定日	平成25年4月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームは(株)イー・ケアの経営である。同社は沼津市に本社を持ち、静岡県東部を中心に有料老人ホーム、グループホーム、デイサービス、小規模多機能型居宅介護、訪問介護、居宅介護支援等の分野で事業を展開し、関連の社団法人でも有料老人ホーム、グループホームを展開している。神奈川県下での展開はこのホームが初めてである。イー・ケア座間の開所は平成24年4月で、まだ新しいホームである。相鉄線さがみ野駅又は小田急線座間駅からバスで10分足らずのところに位置し、府中街道の1本西側の道沿いにある。近くに栗原神社があり、近年1戸建ての住宅も増えた新興の住宅地であるが、畑や里山も残り、古い団地もある地域である。新興住宅は古い地主に、子ども、孫の代が生まれた地に戻って住んでいるケースも多いと聞いている。ホーム周辺は落ち着いた静かな環境である。

②この法人は組織のしっかりした企業であり、法人のコーポレート理念3項目があり、これを受けた形でグループホーム イー・ケア座間の理念「私たちはいつも隣に座り、同じ景色を眺めます」「私たちは笑顔と思いやりであなたの心に寄り添います」と云う理念2項目と各ユニットの月間目標を決め、毎月、目標意識を持って介護に当たっている。管理者の方針は利用者1人ひとりを大切にし、生きている喜びを探り、喜び合える関係を作りたい、家族にイー・ケア座間に預けてよかった、と言われる施設を作りたいと考えている。このホームにご夫婦が3組入居されていた。こちらのホームは、他のホームと違った雰囲気を感じ、「家庭・家族」の持つ雰囲気がここにはあり、擬似家族と「家族」の違いの雰囲気の差があると感じた。次なるグループホームのニーズを見た気がした。この雰囲気の継続を願うものである。

③(株)イー・ケアは福祉専門の会社であり、本社での研修計画があり、実施している。他の関連施設は沼津、函南、富士、富士宮、御殿場に集中しており、このホームと静岡市清水の2つがやや遠隔地となり、管理者など幹部は度々本社に出向くが、一般職員は中々参加しにくい面もあるので施設内研修の充実を図っている。開所当初は、ヘルパーの資格は持っているものの、グループホーム勤務は初めてと云う人がいて、教育に力を入れた。経験の浅い職員にはグループホームの介護は「利用者1人ひとりの心に寄り添う」ことである事を教え、質問の「ノート」を作成し、わからないことがあったらその都度記入してもらい、対する答えを記載する方式を用い、きめ細かい教育を進め、介護は安定して来ている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム イー・ケア座間
ユニット名	ひまわり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2つの理念を設けており、それを常に目につく所に掲示する事で、日々の介護に生かす事が出来ている。	法人のコーポレート理念3項目があり、これを受けた形でグループホーム イー・ケア座間の理念「私たちはいつも隣に座り、同じ景色を眺めます」「私たちは笑顔と思いやりであなたの心に寄り添います」という理念2項目と各ユニットの月間目標を決め、毎月、目標意識を持って介護に当たっている。管理者の方針は利用者1人ひとりを大切に、生きている喜びを探り、喜びあえる関係を作りたい、家族にイー・ケア座間に預けてよかったと言われる施設を作りたいと考えている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1回、近隣より傾聴ボランティアの方に訪問して頂いており、外出時にも同行して頂いている。 ・毎日散歩に出かけており、その際に地域の方達と顔見知りになりお喋りをする等、馴染みの環境が出来てきている。 ・地域の神社の夏祭り見物に行っている。 ・GHの納涼祭に、地域の方達にも参加して下さるよう声かけし、来て頂いている。 ・納涼祭、クリスマス会といった行事に対し、ボランティアの方達に出し物を披露して頂く等の交流を行っている。 	自治会に加入し、どんど焼き、お祭り、盆踊りに参加している。地主さんが自治会長であったのでスムーズな加入が出来た。ボランティアはお散歩、傾聴の方が定期で来てくれている他、近所の方がハーモニカ、歌で来て頂いている。ホームの夏祭り・納涼祭はチラシを配り、模擬店を出し近所の方にも参加して頂いた。日頃のお付き合いでは前の目久尻川であゆが釣れるので近所の人が釣りに出て、釣ったあゆを頂いたり、散歩で通る近所の人に畑で出来たピーマンをさしあげたり、友好関係が出来てきている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	レジメと社報、社内の新しい取り組みについて等の書類を開示し、オープンに状況報告を行っている。また、DVD映像により入居者様の様子を開示する事で、言葉では伝わらない普段の様子を見て頂いている。それらに対する意見や要望について、職員会議で職員に周知し、改善もしくは取り組みを行っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。メンバーは自治会長の奥さん・民生委員、座間市の職員、地域包括支援センター・ご家族で、ご家族にはメールアドレスにて案内し、参加出来る方には全員参加して頂いている。レジメと社報、社内の新しい取り組みを開示し、DVD映像で入居者の様子をみて頂き、意見や要望を伺い、改善もしくは取り組みを行っている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に、それまでの2か月間の活動や事故、様子等を詳細に伝え、開かれた施設となるように取り組んでいる。	市役所とは、岩手で被災された方の入居で相談し、娘さんが座間に引き取って間もない方の入居に関し、ご協力頂いた件等、連携を取っている。その他では社協、地域包括支援センター等が同じ場所であり交流をがある。座間市のグループホーム5つは連絡会を持っているが、市主導の連絡会も考えているとの話はあった。コミセン祭りには作品を出品したいと考えている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い入居者様がいる事で玄関の施錠を行っているが、実地指導で指摘があり、今後の改善方法について、運営推進会議で取り上げてご家族や地域の方達の意見を仰ぐ等、改善への策を模索している。	身体拘束をしないケアの実践と、社内研修の実施を行ない、研鑽を図っている。現状、帰宅願望の強い入居者がある事で玄関の施錠を行っているが、実地指導で指摘があり、今後の改善方法について、運営推進会議で取り上げて、ご家族や地域の方達の意見を仰ぐ等、改善への策を模索している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市社協の連絡会に参加し、虐待防止の講演を聞き、職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族会にて成年後見人制度について、具体的な手続きやそれに関するメリット・デメリットを話し合った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、管理者がご家族立ち会いの下契約を行っており、その際に疑問点や不安について聞いて頂いている。後日新たに浮かんだ疑問については、随時管理者、相談員、ケアマネジャーが対応し、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議にてご家族の参加を募り、入居者様も参加の下発言して頂き、意見や要望を伺っている。 ・半年に1回（9月と3月）家族会を開催し、意見や要望を伺う場としている。	ご家族の意見等は運営推進会議にて頂く他、来訪時やイベント時に伺うようにしている。入居者についても日頃の言葉や態度等から意向を汲み取り、運営推進会議にも参加し、発言して頂いている。半年に1回（9月と3月）家族会を開催し、意見や要望を伺っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎に月に1回職員会議を行っており、その場にて、管理者が本社の会議に出席した際の報告や、新たな提案を聞く場としている。	ユニット毎に月に1回職員会議を行っており、その場にて、管理者が本社の会議に出席した際の報告や、新たな提案を聞く場としている。面談は年2回定期で実施する他、必要に応じ随時話を聞くようにしている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社にて、現在年に2回人事考課制度があり、常勤非常勤共に時期をずらし行っている。人事考課の中の自己申告書、成果報告書に、各自目標や半年間の自分の成果を記し、管理者→取締役の評価を経て給与が決まってくる。その為、各自が提案する、考える、目標をもつ労働に従事している状況である。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	24年度は開設年であり、職員のほぼ全員が新入社員であるため、新人研修が実施された。また、法人外研修は希望すれば受けられるよう配慮されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同グループ内の施設見学を定期的に行う事で、新しい発見やネットワーク作りが出来てきており、質の向上を目指す取り組みとなっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決定後、管理者とケアマネージャーがご自宅もしくは入院入所先を訪問し、アセスメント実施している。また、入居時、入居後もアセスメント実施し、ご本人の要望不安等傾聴し、ケアプランに反映させるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決定後、管理とケアマネージャーがご自宅もしくは入院入所先を訪問し、アセスメント実施している。その際にご家族の訴えを聞き、また入居後なるべく普段の様子を伝えるべく、面会時の面談や、メール、電話で伝える等して、関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族それぞれのニーズを伺い、まずは心配事が改善するような声かけと支援を実施していく。そのうえで、その後必要だと思われるサービスについての情報提供を行い、ご本人とご家族と検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護を行うのではなく、その方が出来る事、行っている事に着眼し一緒に行う事で、馴染みの環境、馴染みの顔ぶれになるようにしている。（例えば家事など）。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や外出等、ご家族に参加や協力を依頼し、ご家族参加型の、ご本人を中心においた支援体制を心がけている。それにより、良い関係作りが出来てきている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親しい友人や知り合いの方の面会等を勧め、時には自宅への外出を支援している。	入居者は近所の方が多く、友人が訪ねて来たり、会社の方が尋ねて来たり、近所で知り合いに会ったりする事がある。ご家族、親しい友人や知り合いの方の面会等を勧め、時には自宅への外出を支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ごく一握りの方達同士の関係ではなく、入居者がみな知り合いであるように、共同でレクレーションに参加して頂いたり、作品作りを行って頂いたりしている。時には、別ユニット間との交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したケースが極めて少ない事から当該項目に該当する事例がない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話より、ご本人の意向を吸い上げ、その人の生活に結び付けるように努めている。	入居時のアセスメント作成の際は、利用者本人からヒアリングをして希望や意向を把握し、実現させるようにしている。普段の会話より、ご本人の意向を吸い上げ、その人の生活に結び付けるように努めている。記録は1日1言でも本人の言葉を直接書くよう指導している。今年度のホーム全体の目標が「思いを叶える」ことで、改めて聞いても答えは返ってこないで、居室担当が聞き、見守り、居室担当を中心として思いを叶えてあげた。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前入居後のアセスメント、また毎日の会話より、その人のこれまでの生活を知るように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過去の生活スタイル、身体状況、現在のニーズを踏まえ定期的にカンファレンスを行い、皆で状況の周知に努める事で、手を出し過ぎない介護に心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に2回程度の定期的なカンファレンスを行い、それによって、ご本人が出来る事出来ない事を明確にし、ケアプランに生かしている。また、ぶれない介護を目指していく為にも、個別の介護手順書の作成に着手している。	ユニット毎に月に2回程度の定期的なカンファレンスを行い、それによって、ご本人が出来る事出来ない事を明確にし、ケアプランに生かしている。居室担当がモニタリングに沿って課題をカンファレンスに提出し、皆の意見を聞いてケアマネが纏める方式で進めている。介護計画を作成する時は、ご家族とも相談しながら作成・見直しをしている。ぶれない介護を目指していく為にも、個別の介護手順書の作成に着手している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を設け、日々の状況を24時間記録している。また、個別記録以外での個々の申し送りノートを設ける事、毎朝申し送りを行う事で、職員間の情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当日の様子によって、外出や外食支援を行う等、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診体制があり、体調管理を行っている。往診以外での体調不良等には、24時間オンコール体制を敷いており、常時連絡がとれる状況にある。	ご家族や利用者の意向で医療機関を選択頂いているが、現在は殆どが協力医療機関をかかりつけ医としている。2週間に1回の往診があり、看護師は本部から定期で来ている。往診以外での体調不良等には、24時間オンコール体制を敷いており、常時連絡がとれる状況にある。訪問歯科医は毎週1回往診して頂いている。医療保険対応で訪問マッサージを受けている人もいる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	不定期ではあるが本社の看護師が訪問し、往診時の報告等を行い、適切なアドバイスや支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者が、ご家族、入院先の相談員と連絡を取り、治療の経過や退院後の受け入れ態勢を調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に、ご家族、医療機関とターミナルケアである旨を話し合い、グループホームで出来る事を明確にし、再度の受け入れ態勢を敷いている。	終末期に向けた対応は入所時に説明し、同意書を頂いているが、そういう事態が来た際には医療機関・ご家族と連携を方向性を決めるよう考えている。現状、医療的措置が出来ない患者は病院から自宅に戻されるケースが多く、末期がんに人を病院と家族の協力を前提で預かったケースもある。入院している時に、ご家族、医療機関とターミナルケアである旨を話し合い、グループホームで出来る事を明確にし、再度の受け入れ態勢を検討している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回、消防署の指導の下定期的に防災訓練を行い、災害に備える対策を行っている。	半年に1回、消防署の指導の下定期的に防災訓練を行い、災害に備える対策を行っている。次回は4/23実施の予定であり、いずれ、夜間想定避難訓練も行って行く予定である。備蓄は3日以上のα米、水等が中心である。本社で備蓄に関する統一した会社の基準がある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室であり、入室する際には必ずノックをし入室するようにしている。敬語での丁寧な声かけをするように心掛けている。	コンプライアンス研修や人権研修を行い、職員一人ひとりが利用者の人格や誇りを尊重して言葉かけには注意している。人生の大先輩として敬意をもって対応するようにしており、時折親しくなり過ぎた言葉かけが見られた時には、注意を促している。接遇の研修を毎年行い、職員のレベルアップに取り組んでいる。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しましょう」という声掛けではなく、「～しますか？」や「どうしますか？」という声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中であっても出来る限り希望にそって生活できるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に「この服はどうですか？」という声掛けをし、一緒に着る服を決められるよう支援している。また、洗面台に個人のブラシを用意し、居室から食堂に行くまでに鏡で身だしなみを確認できるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回「お楽しみ食」として通常のメニューではなく、日頃の会話の中から入居者の希望を取り入れて提供している。片付けは毎日行っており、準備は野菜や果物の皮むき等を行っていただくこともある。	レシピ付きの食材会社の食事を活用している。果物が少なめのメニューなので、おやつで補足して提供している。週に1回「お楽しみ食」として通常のメニューではなく、日頃の会話の中から入居者の希望を取り入れて提供している。片付けは毎日行っており、準備は野菜や果物の皮むき等を行って頂くこともある。外食は月1回以上は出かけている。おやつは自作が多く、ホットケーキやゼリーなどを出している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方へは毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握するため、チェック表を作成し時間・失禁の有無等を共有している。失禁が少ない時間帯はパットを使用しない等の対応を行っている。	排泄パターンを把握するため、チェック表を作成し、時間・失禁の有無等を共有している。失禁が少ない時間帯はパットを使用しない等の対応を行っている。殆どが自立であり、自立でない方は定時誘導している。歩く意思がADL回復に繋がると考えている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、起床時の冷水摂取等を便秘傾向にある方へ勧めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の入浴日は設定せず、本人の希望で入浴できるようにしている。	個人の入浴日は設定せず、本人の希望で入浴できるようにしている。平均2～3日に1回の入浴を提供している。リフトを設置しており、現在は使っていないが、重度化が進んだ際に役立つよう整えている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の消灯時間等は設定せず、個人の意思によって睡眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を掲出し、情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んだり、食器を片づけたり、本人の希望によって実施できるよう配慮している。また、困難な場合は職員が一緒に行い、気分転換が出来るようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回程度、外食する機会を設けている。その案内を家族に行い、参加出来るようにしている。	お散歩は天気のよい日は毎日出かけている。調剤薬局のハックドラッグはサービスが良く、薬の区分けの他、外出（ドライブ）の車を出してくれたり、写真を撮ってくれたり、納涼祭の手伝いをしてくれたりして助かっている。月に1回程度、外食する機会を設けている。その案内を家族に行い、参加出来るようにしている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際は金額等を設定せず、好きな物を購入できるようにしている。また、お金の所持については、全員ではないが一部入居者は個人で管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に施設の電話は自由に使ってよいことになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節にあった掲示物を掲示している。カーテンやエアコン、窓の開閉は自由に出来るようにしている。	ここのリビングは個室的に廊下からセパレートしており、施設っぽさがなく感じが良い。リビングには季節にあった掲示物を掲示している。カーテンやエアコン、窓の開閉は自由に出来るようにしている。管理者はシンプルにと心がけており、リビング、居室は、南側に面し、日当たりがとても良く、目の前の川のせせらぎや、解放感溢れる間取りに、ご利用者は居心地良く過ごしている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をする椅子の他にソファを設置し、自由に使えるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にホームで用意する物はベッドのみで、その他の生活に必要な物はなるべく馴染みの物を持ち込んでいただくようアナウンスしている。	入居の際、生活に必要な物はなるべく馴染みの物を持ち込んで頂くようご案内し、ホーム側でベット、エアコン、キャビネットを用意し、使って頂いている。居室は、それぞれ、思い思いにレイアウトされ、ご夫婦の居室では、ベッドルームと寛ぐ部屋をわけ、趣味に勤しみながら、壁に絵や思いでの写真等を貼り、自宅同様に生活されている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には表札を設置し、何の場所か誰の居室かわかるようにしている。また、トイレは特に大きくトイレであることを分る様にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
イー・ケア座間

作成日

2013. 4. 8

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
		入居者様の症状や状況に差がある為、余暇的サービス提供量に差が出てしまう	可能な限り、全員が諸々の活動や外出に参加出来るような機会をもうける	一度に全員での参加が困難な場合には、その方の状況に応じ、時間や場をずらしてアプローチしていく	3ヶ月～6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム イー・ケア座間
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2つの理念を目につく所に掲示し共有するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は毎日散歩しており、近所の人から声をかけていただくことがある。 ・GHの納涼祭に、地域の方達にも参加して下さるよう声かけし、来て頂いている。 ・不定期に近所のスーパー等へ買い物に行っている。 		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている		/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	レジメと社報、社内の新しい取り組みについて等の書類を開示し、オープンに状況報告を行っている。また、DVD映像により入居者様の様子を開示する事で、言葉では伝わらない普段の様子を見て頂いている。それらに対する意見や要望について、職員会議で職員に周知し、改善もしくは取り組みを行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に、それまでの2か月間の活動や事故、様子等を詳細に伝え、開かれた施設となるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、具体的に何が拘束にどのようなことが拘束に当たるかも含めて月に1回の職員会議で検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市社協の連絡会に参加し、虐待防止の講演を聞き、職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族会にて成年後見人制度について、具体的な手続きやそれに関するメリット・デメリットを話し合った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、管理者がご家族立ち会いの下契約を行っており、その際に疑問点や不安について聞いて頂いている。後日新たに浮かんだ疑問については、随時管理者、相談員、ケアマネージャーが対応し、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議にてご家族の参加を募り、入居者様も参加の下発言して頂き、意見や要望を伺っている。 ・半年に1回（9月と3月）家族会を開催し、意見や要望を伺う場としている。 		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎に月に1回職員会議を行っており、その場にて、管理者が本社の会議に出席した際の報告や、新たな提案を聞く場としている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社にて、現在年に2回人事考課制度があり、常勤非常勤共に時期をずらし行っている。人事考課の中の自己申告書、成果報告書に、各自目標や半年間の自分の成果を記し、管理者→取締役の評価を経て給与が決まってきている。その為、各自が提案する、考える、目標をもつ労働に従事している状況である。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	24年度は開設年であり、職員のほぼ全員が新入社員であるため、新人研修が実施された。また、法人外研修は希望すれば受けられるよう配慮されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同グループ内の施設見学を定期的に行う事で、新しい発見やネットワーク作りが出来てきており、質の向上を目指す取り組みとなっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決定後、管理者とケアマネージャーがご自宅もしくは入院入所先を訪問し、アセスメント実施している。また、入居時、入居後もアセスメント実施し、ご本人の要望不安等傾聴し、ケアプランに反映させるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決定後、管理とケアマネージャーがご自宅もしくは入院入所先を訪問し、アセスメント実施している。その際にご家族の訴えを聞き、また入居後なるべく普段の様子を伝えるべく、面会時の面談や、メール、電話で伝える等して、関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族それぞれのニーズを伺い、まずは心配事が改善するような声かけと支援を実施していく。そのうえで、その後必要だと思われるサービスについての情報提供を行い、ご本人とご家族と検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護を行うのではなく、その方が出来る事、行っている事に着眼し一緒に行う事で、馴染みの環境、馴染みの顔ぶれになるようにしている。（例えば家事など）。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や外出等、ご家族に参加や協力を依頼し、ご家族参加型の、ご本人を中心においた支援体制を心がけている。それにより、良い関係作りが出来てきている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親しい友人や知り合いの方の面会等を勧め、時には自宅への外出を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ごく一握りの方達同士の関係ではなく、入居者がみな知り合いであるように、共同でレクレーションに参加して頂いたり、作品作りを行って頂いたりしている。時には、別ユニット間との交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したケースが極めて少ない事から当該項目に該当する事例がない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話より、ご本人の意向を吸い上げ、その人の生活に結び付けるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前入居後のアセスメント、また毎日の会話より、その人のこれまでの生活を知るように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過去の生活スタイル、身体状況、現在のニーズを踏まえ定期的にカンファレンスを行い、皆で状況の周知に努める事で、手を出し過ぎない介護に心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に2回程度の定期的なカンファレンスを行い、それによって、ご本人が出来る事出来ない事を明確にし、ケアプランに生かしている。また、ぶれない介護を目指していく為にも、個別の介護手順書の作成に着手している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を設け、日々の状況を24時間記録している。また、個別記録以外での個々の申し送りノートを設ける事、毎朝申し送りを行う事で、職員間の情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当日の様子によって、外出や外食支援を行う等、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診体制があり、体調管理を行っている。往診以外での体調不良等には、24時間オンコール体制を敷いており、常時連絡がとれる状況にある。 また、入居前のかかりつけ病院にも希望があれば継続して通えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	不定期ではあるが本社の看護師が訪問し、往診時の報告等を行い、適切なアドバイスや支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者が、ご家族、入院先の相談員と連絡を取り、治療の経過や退院後の受け入れ態勢を調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に、ご家族、医療機関とターミナルケアである旨を話し合い、グループホームで出来る事を明確にし、再度の受け入れ態勢を敷いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回、消防署の指導の下定期的に防災訓練を行い、災害に備える対策を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室であり、入室する際には必ずノックをし入室するようにしている。敬語での丁寧な声かけをするように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しましょう」という声掛けではなく、「～しますか？」や「どうしますか？」という声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中であっても出来る限り希望にそって生活できるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に「この服はどうですか？」という声掛けをし、一緒に着る服を決められるよう支援している。また、洗面台に個人のブラシを用意し、居室から食堂に行くまでに鏡で身だしなみを確認できるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回「お楽しみ食」として通常のメニューではなく、日頃の会話の中から入居者の希望を取り入れて提供している。片付けは毎日行っている。片付けは毎日行っている。片付けは毎日行っている。片付けは毎日行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方へは毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握するため、チェック表を作成し時間・失禁の有無等を共有している。失禁が少ない時間帯はパットを使用しない等の対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、起床時の冷水摂取等を便秘傾向にある方へ勧めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の入浴日は設定せず、本人の希望で入浴できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の消灯時間等は設定せず、個人の意思によって睡眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を掲出し、情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んだり、食器を片づけたり、畑作業をしたり、本人の希望によって実施できるよう配慮している。また、困難な場合は職員と一緒にいき、気分転換が出来るようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回程度、外食する機会を設けている。その案内を家族に行き、参加出来るようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際は金額等を設定せず、好きな物を購入できるようにしている。また、お金の所持については、全員ではないが一部入居者は個人で管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に施設の電話は自由に使ってよいことになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節にあった掲示物を掲示している。カーテンやエアコン、窓の開閉は自由に出来るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をする椅子の他にソファを設置し、自由に使えるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にホームで用意する物はベッドのみで、その他の生活に必要な物はなるべく馴染みの物を持ち込んでいただくようアナウンスしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には表札を設置し、何の場所か誰の居室かわかるようにしている。また、トイレは特に大きくトイレであることを分る様になっている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
イー・ケア座間

作成日

2013. 4. 8

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		入居から約1年となり、それぞれの希望・要望が大きくなっている。	可能な限り希望・要望を取り入れたサービスを提供する	日々の生活の中で、 ①個々のニーズを把握する ②可能な限り希望・要望が実現できるよう支援する	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。